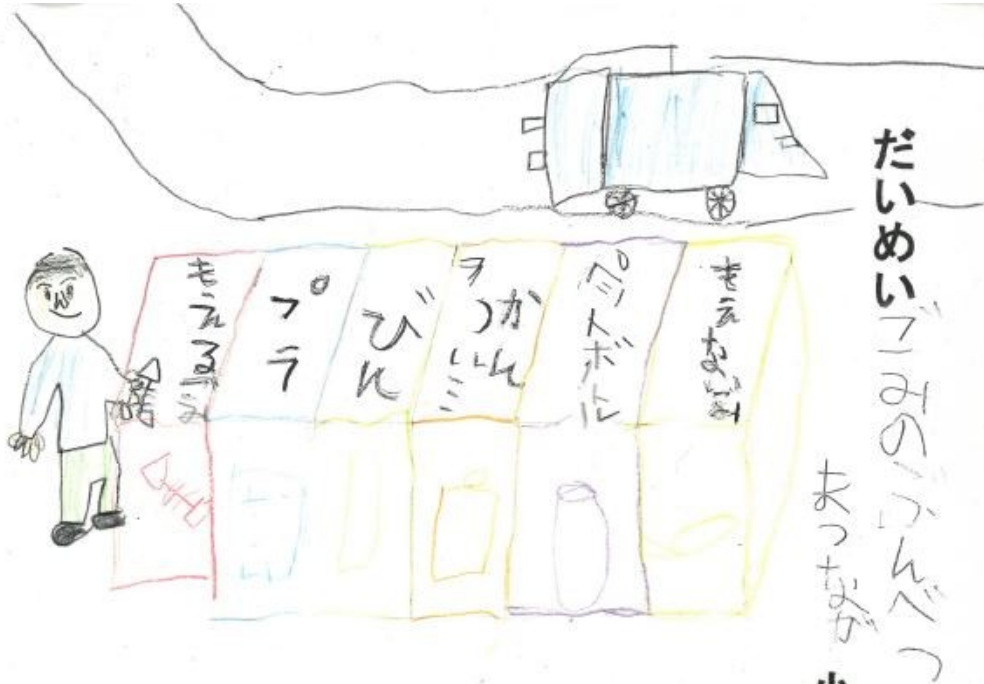


会津若松市民憲章作文コンクール 最優秀作品

絵日記の部

『ごみのぶんべつ』
会津若松市立松長小学校 1年 秋山 蒼汰



リ	リ	か	は	い	つ	し	ち	も	ぼ
よ	よ	り	ふ	た	か	よ	す	つ	く
く	う	し	ん	め	こ	う	て	の	の
を	を	て	べ	に	し	き	ま	は	う
し	へ		つ	も	よ	か	す	こ	ち
ま	ら	こ	ち		う	く	の	に	で
す	み	み	し	ぼ	し	し	ご	ご	は
。	ど	の	つ	く	な	せ	み	み	

小学校
一年
まっちゃん
蒼汰

会津若松市民憲章作文コンクール 最優秀作品

小学校2・3年生の部

『わたしが考える交通安全』
会津若松市立日新小学校 3年 小山 莉奈

会津若松市民けん章の一つに、きまりを守り、明るいまちをつくりましょうという言葉があります。わたしは、きまりの中でも交通安全について考えることにしました。なぜなら、交通じこの悲しいニュースを聞いたことがあるからです。そのニュースは、小学生の集だん登校のれつに、トラックがしょうとつしたじこでした。その時、わたしと年が同じくらいの小学生が亡くなりました。どうしてじこがおきたのか、じこにあわないためにはどうしたらいいか、家族と話し合いました。

わたしは、学校の交通安全教室やお母さんの運てんめんきょを新しくした時などに、交通ルールを学びました。歩行者は、とび出しをしない、一れつになって歩く、夕方に外出をする時は明るい色の服を着ることなどが大切です。車の運てん手は、スピードを出しすぎない、まがりかどでは車や人がいないかをよくたしかめる、夕方はかならずライトをつけることなどが大事です。

交通ルールを知っていても、じこにあいそうになったことがあります。たとえば、わたしは、ちゅう車場で車やお店から走ってとび出してしまったことがあります。お母さんは、雪道でブレーキをふむのがおそくなり、前の車にぶつかりそうになったことがあるそうです。そこで気がついたことは、うきうきしている時やいそいでいる時などにも、じこがおこりやすいということです。交通ルールを学ぶだけでなく、心を落ち着かせたり、時間に間に合うように早めに行動をしたりすることも大切だと思いました。

わたしは、交通ルールを守り、心によゆうを持って、じこのない明るい会津若松市にくらしたいです。

会津若松市民憲章作文コンクール 最優秀作品

小学4・5・6年生の部

『リサイクルで地球に優しく』
会津若松市立日新小学校 5年 松本 紗歩

私達が生活する上で、二酸化炭素やゴミがたくさん出ている事が問題になっています。その中でも、生活していると、ゴミは必ず出る物です。その事について、考えてみました。

ニュースで、福島県はゴミを出す量が上位だと知りました。そこで、なぜゴミがふえるといけないのかと調べると、理由の一つに、ゴミをもやす時に二酸化炭素がたくさん出て、それが地球温だん化につながっていると知って、ビックリしました。今年の夏休み中も、ものすごく暑かったり、大雨でおじいちゃんの家の方の鉄橋が流されてしまったと聞いて、怖かったし、変な天気が多かったです。その事も、ゴミが関係しているのかと思うと、もっとゴミの事を考えなくてはいけないと思いました。

大人が決めたSDGsを、学校でも習い、それについて考えるのに、なぜそれを決めた大人達が、ゴミを多く出したり、資げんを大切にしようとしなかったり、もっと意識を持って取り組んでゴミを減らそうとしないのかと思い、色々調べてみる事にしました。

まず、ゴミの出す量を調べると、一位富山県、二位福島県、三位新潟県でした。私の住む福島県が二位で、その福島県の中でも会津若松市もゴミの出す量が、全国ワースト十位と知って、ビックリしました。

ちょうど、私がこの事について調べている時に、お母さんのケイタイ電話に会津若松市からメールで焼却ろが、一つこわれたので、なるべくゴミを少なくするよう協力してくださいと、連絡がきたと聞きました。今、この事がきっかけとなり、協力できれば、少しでもより良くなると思い、家族みんなで協力しました。

私の家では、ペットボトルやダンボールは、ゴミ収集日には出さず、リサイクルポイントのつく所に持っていきます。ただのゴミが、ポイントになり、たまると買い物ができます。だから、ゴミを無駄に捨てている感じにはならず、ポイントがどのくらいたまったら楽しみになります。他のゴミも、ポイントや、みんなが喜ぶ特典になればゴミも減るし、SDGsにつながると思いました。その特典は何がいいか、家族にインタビューしてみました。お父さんは、

「今、ガソリンが高いから割引きになったらいいな。」

と言って、お母さんは、

「ポイントがたまると、電気代が安くなるとうれしいな。」

と言って、お兄ちゃんは、

「ゲームが買えるけんになったら、本気でがんばる。」

と言って、笑っちゃいました。でも、そんな風にみんなが楽しく続けられるような決まりを作れば、ゴミが減るのかなと思いました。ちなみに私は、ほしい文ぼう具が、五つまで無料になったらうれしいです。

このようにみんなで協力して、続けられるような特典を考えれば、みんなが協力し合い、この福島県も会津若松市も地球にも優しくなると思います。

一人一人が出きる事は、小さい事かもしれないけど、それが大事で、みんなの小さな力が集まれば、きっと良い結果になると思っています。

会津若松市民憲章作文コンクール 最優秀作品

中学生の部

『きまりを守り、明るい町にするために』
会津若松市立北会津中学校 2年 白井 るな

私が住む会津若松は、隣県へと続くきれいな阿賀川と、緑豊かな住みよい町。道路のわきには、真夏の太陽の日差しにも負けないきれいな花たち。そんなステキな街並みを通りながら、いつも自転車で通学しています。

しかし、そんなすばらしい町でも、車からのタバコのポイ捨てや、中身の入ったペットボトルやガラスの破片など歩道に落ちていることがあります。住民が住みやすく、「整えて」くれる方々がいる一方で、「きまり」を守らない方もいるようです。とても残念です。

皆さんは「ポイ捨て禁止」などの看板を一度は見たことがあるでしょう。「整えて」くれる方々が、ポイ捨てが多い場所などに設置してくれています。ペットのマナーも同様です。散歩中なのに、飼い主さんが手ぶらの方もいます。衣類のポケットに袋をたたんで持っているのかもしれませんが、私は気になって見てしまうことがあります。いずれにしても、「きまり」を守ってほしいです。

私も何かできないか、と考えてみました。私は、日々の生活から出るゴミの削減は、「ゴミの日」に出すゴミの量を減らすことだとしか思っていませんでしたが、分別することで、もっと自分が出すゴミを減らせるのではないか、と思いました。そこで夏休みは、「ゴミ出し担当」となり、できる限りの分別をすることにしました。トマトやスイカなどの夏野菜。水分が多く、旬の食材なので夏バテ効果があり、毎日のように食べていますが、朝、皮をむいて新聞紙の上に乗せ、日中日に当て、一日乾燥させてみました。結果、量も形も半分以下になり、扱いやすくなりました。

お菓子の箱や、ビールのパッケージ。いつもは燃えるゴミに小さく切って入れていましたが、資源物として分別することで量を減らすことができました。このような「分別」をすることで、我が家では、四十五リットルのゴミ袋から、三十リットルのゴミ袋へ変えられました。

これからも、もっともっとゴミを減らせるよう意識し、考えていければと思います。地域の皆さんと、明るい町、そして住みよい町にするために。